

# RUGBY 復習シリーズ

## (Danie Craven Rugby Handbook より)

### 1. The Rugby Structure

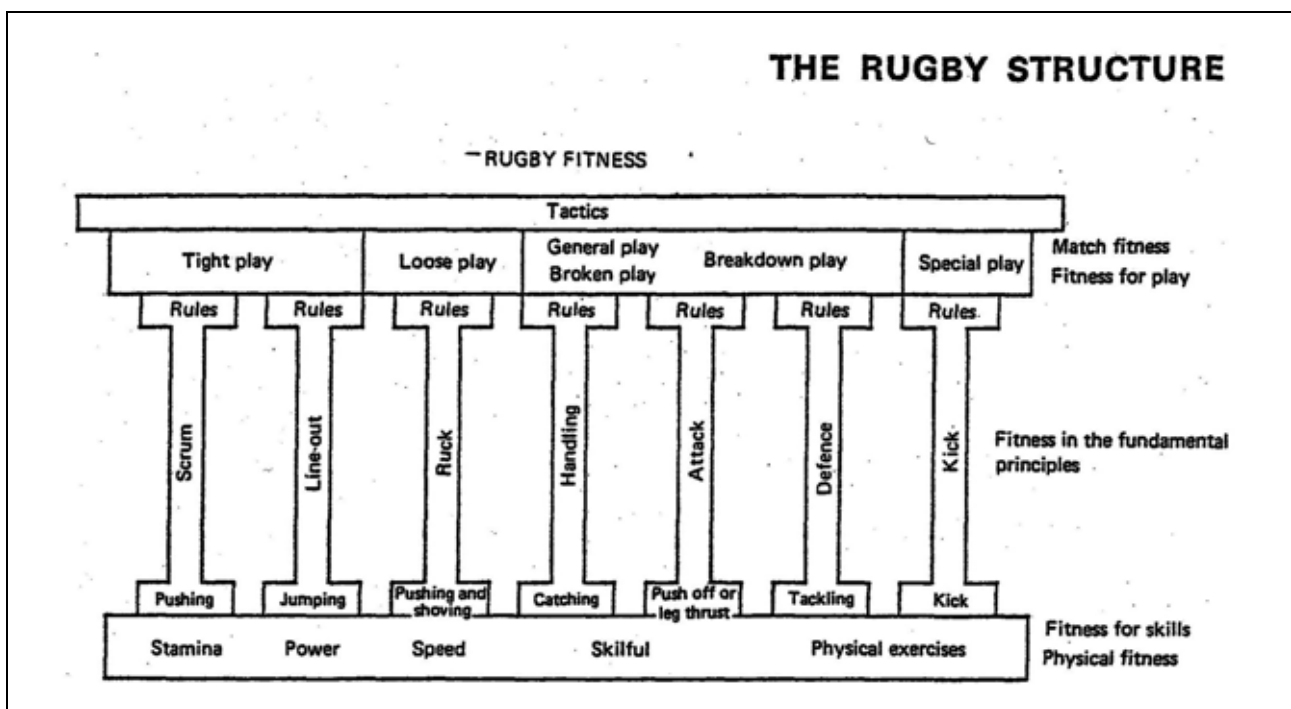
7人制ラグビーがオリンピック競技会正式種目になりました。それによって世界中のラグビーに対する関心や興味が広まり高まることは喜ばしいことです。また一方でタグラグビーが子供たちに広まり裾野が広がっています。2023年にはラグビー発祥200周年を迎えます。それぞれを盛大に意義あるものになることを願うものです。そのためにはわが国でも大きなエネルギーが必要であることは言うまでもないことです。ラグビーワールドカップ日本開催も迫っています。上記の大きな流れによるラグビーの普及発達を目指すと共に、ラグビーの源流を探り楽しむことも重要なことです。7人制ラグビーの導入は、オリンピックが過大なものになり過ぎた反省と調整作業に加えて商業主義の流れの中で必然的に決まったものであり、タグラグビーには安全普及という観点から子供たちが安易にラグビーを楽しめる利点があるのは間違いのないことです。それらはIRBのラグビーを simpler に easier にという方針に沿ってラグビーの普及発展に資するものであることは言うまでもありません。そしてラグビー本流である15人制についての知識を豊富にし、理解を深め、identityの追及に努め、自信と誇りを持ち心の糧としてラグビーをもっと楽しむためにラグビー復習の必要性を改めて考えさせられます。

「現代ラグビー」は1960年代に始まり1970年代以降進化を遂げた新しいラグビーを指します。現代ラグビーへの推移については拙著「現代ラグビーガイダンス」をご参考下さい。現代ラグビーの流れを歴史的にグローバルに眺めると次のような3つの大きな流れがあります。

1. イングランドを中心とする英語圏とヨーロッパ諸国
2. 南半球（ニュージーランド・オーストラリア・南アフリカ）等の台頭と牽引
3. IRBの統括推進

1項は1971年RFU創立100周年を迎えるにあたり、改めてラグビーの研究が行われました。RFUでラグビーの原典と云われる“The Guide for Coaches”を始め4冊の“hand book”と“Better Rugby”が指導書として出版されました。それらは、日本語版も作成されました。

2項はニュージーランド・オーストラリア・南アフリカは英本国を凌ぐ勢力になりました。理論的にも刮目に値するものです。指導書の中で南アフリカのDanie Cravenの著作は特に優れたものです。ラグビー復習に原訳と考察により“Review Rugby Series”を書き進めたいと思います。その端緒となっているラグビー分析図は大変珍しいものです。説明通読して考察する価値があるものです。



原文	著者要訳
<p>Central to the game are the fundamentals; What are they? They give the game its specific characteristics and they have conspicuously emerged as integral elements in its evolution. Consequently they are the pillars supporting the game and this is their function in our Rugby building. Remove one of them and the game is no longer Rugby. Neglect one of them and the game suffers. Our game is based on the fundamentals. They are:</p>	<p>建造物ラグビーの中核となるものにいくつかの主要なものがあります。それらは何かという、ラグビーの特性を与えるもので個々の特性が発達していることが建造物に欠くべからざる要素として非常に目立っています。結論的な言い方をすれば、それらはラグビーを支える柱です。ラグビーを造り上げる役目をするもので、支柱の1つを無視するとラグビーゲームが崩壊してしまいます。ラグビーは柱となる次のような主要なプレーの上に出来上がっています。</p>
<p><i>The scrummage</i> : Remove this and what remains of Rugby?</p>	<p>スクラム : これを取り去ればラグビーに何が残りますか?</p>
<p><i>The line-out</i> : Is there another game with this kind of fundamental?</p>	<p>ラインアウト : この重要なやり方をする他のスポーツ競技はありますか?</p>
<p><i>The ruck</i> : What other game has a ruck and, in addition to it, an attacking a defensive, and a neutral ruck?</p>	<p>ラック : ruck を行う他のスポーツがありますか? 更に言えば攻撃・防御・ニュートラルの3つのruckがあります。</p>
<p><i>Attack</i> : In no other game do we have a side-step, a swerve, a dummy, slackening and acceleration of speed in exactly the same way as we have them in Rugby.</p>	<p>アタック : 実際に、side-step, a swerve, a dummy, speed の加減等々全く同じような方法で行う他のスポーツは有りません。</p>
<p><i>Handling</i> : In what other game is the ball passed as frequently? Rugby also has the falling ball, the diagonal ball and the scooped ball, each with its sub-skills.</p>	<p>ハンドリング : こんなにしばしばパスが繰り返される競技がありますか。持っているボールを地面に落したり、対角状にクロスパスをしたり、ボールを拾い上げたり、時々小技を使ったりします。</p>
<p><i>Defence</i> : In few games do we find the crash tackle or the tackle of a player with the ball.</p>	<p>ディフェンス : ピシッと一発で決めるタックル。ボールを持っているプレイヤーへタックルするのを見ることが出来るスポーツ滅多にありません。</p>
<p><i>Kick</i> : In no other game is there such a variety of kicks as in Rugby: in the air from the hand, the touch kick, the high kick, the cross kick, the hook kick (by the fly half to the blindside lock), the centre kick, and the short kick. Next we have the ground kicks - the drop kick, the grubber kick, and the place kick.</p>	<p>キック : ラグビーほど kick の変化に富んだ競技は他にありません。手に持っているボールを蹴るものとしては touch kick, high kick, cross kick, hook kick (fly-half による blind-side へ), centre kick, short kick 等です。いったん地面に着いたボールを蹴るものとしては drop kick, grubber kick, place kick があります。</p>

原文	著者要訳
<p>When considering these fundamentals closely we see that some of them stem from the game's origins. Rugby is a game in which attack is opposed to defence. This is basic and is tied up in the very roots of Rugby.</p>	<p>以上の主要なものをよく考えると、その中のいくつかはラグビーの起源から生じているものです。ラグビーは攻撃と防御が相対して戦う競技で、このことは競技の根本でありラグビーのルーツの中に結びつくものです。</p>
<p>The other fundamentals spring from attack and defence. In fact, in the early days of Rugby there was only attack; defence came much later. We must therefore never lose sight of the fact that attack should be the watchword of the game. The aim of defence was first of all repossession. Only if this could not be achieved were players to be stopped. Possession thus constitutes the basis of attack, and repossession should form the basis for defence. In time, other fundamentals were developed from attack and defence. Only after attack had failed, and the ball carrier fell on it and the other players closed on it, did the scrum originate. Later on handling came into being, with the result that more possibilities of attack were created. Initially, falling on the ball was considered a coward's act. Today, when the ball is on the ground, a ruck is formed and this can be the finest ally of attack.</p>	<p>他の主要なものは攻撃と防御から湧いてきたものです。事実ラグビーの創世期は攻撃だけで防御は後になって出て来たものです。「攻撃」がラグビーの合言葉であるという視点を決して見失ってはいけません。防御の目的の第一は相手が所有しているボールを取り返すことです。ボールを持っているプレーヤーを止めることができなかつたら、ボールを取り返すことができないのです。ボール所有を継続することが攻撃の基本です。ボール所有を取り戻すことが防御の基本なのです。時の経過と共に他の主要なことが攻撃と防御を発展させました。攻撃を失敗した時に ball-carrier が倒され他のプレーヤーがその周りに集まるのが scrum の起源です。後になって攻撃の可能性が拡大した結果 handling が導入されました。数人のプレーヤーがボールの上の倒れることはゲームに混乱を招く行為と考えられますが、ボールがグラウンド上にある時は ruck が形成され、それらのプレーヤーは攻撃の共演者となります。</p>
<p>In former days there was no kicking except to the posts; but then players became cautious and kicked the ball away from their posts to the sidelines, so that it would be more difficult for their opponents to attempt a drop kick or succeed with a penalty kick. As a result of this the line-out came into being.</p>	<p>創成期には goal-post へ蹴る以外は勝敗を決める方法が存在しませんでした。そんなゲームの中で goal-post 付近から side-line の外へボールを蹴り出すことに気がしました。それは相手側が drop-kick をしたり penalty-kick を成功させたりする試みを非常に困難なものにしました。その結果として lineout になりました。</p>
<p>So strong was the urge to attack that kicks were also used as an attacking aid. First of all there was the cross kick, followed by the punt, the diagonal kick and the grubber.</p>	<p>攻撃成功への催促が非常に強くなり、kick が攻撃の助けとして使われるようになりました。kick の順番としては cross kick が一番先で punt、diagonal kick、grubber kick と続きます。</p>
<p>Today handling is the best ally of attack, while kicking is the best ally of defence. Bad handling, however, leads to the majority of scrums while kicks cause line-outs. The conflict is consequently between attack, supported by handling, and defence, bolstered by kicks. The game is also a struggle between handling and kicking. In this, conflict the scrum, the line-out and even the maul take place when attack or defence either fails or succeeds.</p>	<p>今日（1960年台当時）では handling が攻撃の第一演出法で kick は防御に対する最上の演出法です。しかしながら悪い handling は多くの scrum を導き、悪い kick は line-out の原因になります。プレーヤー同士のぶつかり合いは handling によって与えられる攻撃や kick によって助長された攻撃と防御の間に起きます。ラグビーは handling と kicking の闘争でもあるのですが、ぶつかり合いの中で scrum と lineout さらに maul でも攻撃と防御でどちらが成功しどちらが失敗するという戦いが起こります。</p>
<p>We realise that kicks can also play a part in attack and that similarly handling can play a part in defence, but at the same time kicking and handling have identical basic functions to fulfil.</p>	<p>Kick で攻撃の一部を行うことができるのと同じように、handling でも防御の一部が出来ることを実際にやっています。同時に kick や handling は果たすべき本来的で基本的な役目を持っています。</p>



PHOTOS Shume i



PHOTOS Shume i

## 考察

上記の構造図についての説明は以上です。ラグビーゲームのプレー分析と構造図と説明は多くの示唆に富んだものを含んでいます。

ラグビーを建造物に図化して表したことは注目に値するものです。主要なプレーを単に並列的に分類するだけでなく機能面を相互の関連も含めて相対的立体的に考えられているという点では、内容の多いラグビーゲームを的確に理解するのに役立つものです。ギリシャのパルテノン神殿やドイツのブランデンブルクの凱旋門を思い浮かべて下さい。ラグビー建造物にはそれらに共通する崇高性と雄大さに対する畏敬の念と共に、競技を愛し競技に対し全力を発揮することを誓う精神を含めて表わされていることを見逃してはならないと思います。

ラグビーを支えている7本の柱に注目しましょう。7本の柱の一本でも無視すればラグビーは崩壊してしまうし、それらのいくつかはラグビーの起源から生じる歴史あるものであるというのです。それらが使われてゲームが構成されるのですが“ a game in which attack is opposed to defence ” 攻撃と防御が表裏一体のものとして常時相対抗する競技であるということはラグビーの本質を表わす重要な言葉です。そのことはルールにも表わされています。例えばボールが unplayable になって scrum での防御がボールを入れる場合、この「防御側」というのはボールを所有して攻撃していたゲームの反対側というのではなく、scrum の地点が自陣側（味方ゴールライン近く）になるチームということです。もう一つの例としては、ボールを持っているプレーヤーがタッチへ押し出された場合、ボールを投入するのはボールを持っていた側が押し出された側ということについて色々議論され、一旦決まったルールが180度反対になったこともありました。常時攻防一体の中でボールを open へ展開する義務責任と相手を抑え止めるということの関係が問題のポイントになったわけです。「攻撃すること」がラグビーの合言葉であることを忘れないようにしましょう。終始 flair を活かして攻め続けることが楽しいのです。そのために attack は継続性のあることが必要です。Aggressive は攻撃に出るという意味で aggressive tackle は単に攻撃的即ち相手にきつく激しいタックルではなく、攻勢へ転じて継続していくことのできる進行的なプレーをいうのです（攻撃的タックルという訳は不適当となります）。

7本の柱はそれぞれ礎石の上に立っています。礎石にはそれぞれの活動の中核となるプレーが示されています。

礎石が置かれている土台となる地面をよく見て下さい。ラグビーは広いフィールドを長時間走り回る体力が必要で、これは根本原理の一つです。建物は土台がしっかりしてはなりません。土台の要件は鍛えられた stamina, power, speed, skillful と、それらを備え活用していく身体であることを示し図の外に三つ fitness ( Match fitness Fitness for play, Fitness in the fundamental principles, Fitness for skills Physical fitness ) の部分を教え、努力を求めています。ここ20年のラグビーを観ると Power だけの優劣によって勝敗が左右されるゲームを観ることがあります。勝敗を決めるだけならそれでよいかもしれませんが、楽しくも面白くもありません。3Kスポーツ(きつい・汚い・危険)として多くの人に嫌われるだけです。

7本の支柱の上の接続部は rule です。色々な rule によってそれぞれのプレーを固定接続されることによって競技が組み立てられていくことを示しています。図の rule の部分は多くの場合装飾が施されています。ラグビー創成期ゲーム中の問題は話し合いで解決され case law として認められてきました。ラグビーの長い歴史の中で常に“ The spirit of rugby is written in the laws ” 受け継がれてきました。そして laws の理念の一つである equal condition はラグビーの常時攻防相対抗競技であることと共通のもので、さらに本書の先の項目で7つの基礎を述べた後に“ Our game is based on the fundamentals ” laws は how the fundamentals are to be based と進み、その理由として Laws deserve a place in the general structure of the game となり、建造物での位置を定めると述べ、最終的に Laws が、ラグビーそのものが正しく行われることを宣言しています。loose play を handling と attack と defence の柱は general play, broken play, break-down play を支え、kick は special play をそれぞれ支えていることはラグビーの成り立ちと戦い方を教えてくれます。Game の流れを大きく掴んで理解してプレーするのに役立ちます。柱の一本でも無視したらラグビーは崩壊すると書かれていますが attack と defence も他の5本同様の機能内容に考えられているのは注目に値します。その上で、ボール所有を継続することが攻撃の基本です。ボール所有を取り戻すことが防御の基本であると究極的な表現を付け加えています。Fundamentals を rule に合わせて使って game を形成し、理想的なトライ ( ideal try ) をとる楽しみを目指して戦うために fundamental を一つ一つ見直すことを説いているのです。

そこでもう一度建造物の上と下の部分と7本の柱のバランスについて考えましょう。全体どっしりと均整がとれています。この図には取り入れていませんが実際の建造物では柱が細く弱く見えないように「エンタシス」の技法と接続部装飾が大きく念入りになされています。これらは建造物を強固に見せ、接続部の重要性を強固にするものです。Tactics が土台と組み立ての最上部に総括的な果実として乗っています。目指すべきラグビーは“ The guide for players ” で a free flowing game involving 15 players in some breath taking spectacular,

and “ hey presto! ” it happens.文字通り楽しい喜びの限りなく大きいものです。そのために平素から身体を鍛え練習をして意欲を高めてプレーヤーの flair を活かし good, bright, interesting game の創造に努めなければなりません。この図を見て考えているうちに大英博物館へ行った時の感動したことを思い出しました。同じことが Danie Craven の世界観、人生観、ラグビー観の中に彼が経験したであろう思い出が活きているように思いました。

2013.08.24  
西川 義行

注釈：本コラムの資料は 1977 年に出版された「Rugby Handbook」(Danie Craven 著)を使用しています。  
そのため、本文の中に出てくるルール解釈等は 1977 年当時のものを使用していますので、現代と若干違うものとなっています。